’22年11月29日　電波新聞掲載

日本半導体商社協会

「ケムシェルパ」データ自動作成

オートサーバーのリース開始

データ入力・作成負荷軽減

日本半導体商社協会（DAFS）は、経済産業省が主導して運営する製品含有化学物質伝達ツール「chemSHERPA（ケムシェルパ）」のデータ作成の自動化を支援し、オートサーバーをリースする事業を開始した。

DAFSでは半導体や電子部品に含まれる化学物質の成分表から出力データファイルを自動作成するシステムを開発。システム自体をリースすることで自社での作成ノウハウ蓄積を支援し、半導体・電子部品商社のデータ入力・作成負荷の軽減を図るのが狙い。

化学物質で構成される電子機器・部品は、規制対象物質の情報管理が厳しく求められる。廃棄物処理での有害物質に起因する被害を防ぐのを目的とした欧州のRoHS指令など、各国・地域で化学物質管理に関する規制が制定されている。

ケムシェルパは製品に含有する化学物質の情報を適正に管理し、供給網全体で利用可能な情報伝達の仕組みを提供することを目的にしている。

半導体製品はパッケージのエポキシ樹脂やリードフレームの銅や鉄、銀、チップのシリコン、ワイヤの金やパラジウムなど多様な物質で構成。販売する商社などの納入業者は、品質保証部などの職員がそれぞれの成分をケムシェルパに入力しており、大きな作業負担が生じていた。

DAFSでは2017年からケムシェルパのデータ作成業務を代行するサービスを開始。5年間に国内外の半導体メーカー115社のデータ作成を受託した。

今回運用を開始した、ケムシェルパの出力データ「shaiファイル」を自動作成する「chemSHERPAオートサーバー」を活用すれば、手作業に比べ大幅な作業時間の効率化が図れる。

例えば、一般的なICの場合、成分データや材質名称の入力から法規制の判断などに20分以上の時間を要した。

オートサーバーを使えば、成分表のデータをケムシェルパに合わせて自動変換。DAFSによれば、報告物質のデータ作成時間はオートサーバーの利用で約半分に短縮できるという。

これまでは材料の質量や含有率などを手動でコピーしたり入力していた。自動処理に置き換えることで正確性の向上も図れる。

リース料金は月額22万円（税込み）。運用後のサポートはDAFSの技術者が担当する。

大西利樹会長は、会員42社だけでなく、商社やメーカーなど「会員企業以外にも幅広く利用してもらいたい」と期待する。

なお、半導体市況について大西会長は、会員企業に実施した景況感アンケートから「6月から（情勢が）大きく変わった」と指摘。一時の不足感が緩和され始めているとの認識を示した。

大西　会長